

## 教育委員会第5回協議会会議録

開催日時 平成19年2月9日(金) 開会10時00分 閉会10時35分

開催場所 中野区役所教育委員会室

出席委員 中野区教育委員会 委員長 飛鳥馬健次

同 委員 山田 正興

同 委員 大塚 孝子

同 委員 高木 明郎

同 委員(教育長) 菅野 泰一

事務局職員 教育委員会事務局次長 竹内 沖司

教育経営担当課長 小谷松 弘市

教育改革担当課長 相澤 明郎

学校教育担当参事 大沼 弘

指導室長 入野 貴美子

生涯学習担当参事 村木 誠

中央図書館長 倉光 美穂子

書記 教育経営分野 松島 和宏

教育経営分野 吉田 真美

傍聴者数 8人

議 題

○委員長、委員報告事項

- ・ 1 / 2 6 中野区立幼稚園長との意見交換会について
- ・ 1 / 2 6 特色ある学校づくり重点校研究発表会(中野富士見中学校)について
- ・ 1 / 2 6 区立小学校PTA連合会新年会について
- ・ 1 / 3 0 特色ある学校づくり重点校研究発表会(若宮小学校)について
- ・ 1 / 3 1 特別支援教育モデル事業発表会について
- ・ 2 / 2 武蔵台小学校訪問と児童との対話集会について
- ・ 2 / 2 特色ある学校づくり重点校研究発表会(向台小学校)について
- ・ 2 / 8 特色ある学校づくり重点校研究発表会(北中野中学校)について
- ・ 2 / 8 第2回要保護児童対策会議について

## ○教育長報告事項

- ・ 学校訪問について
- ・ 特色ある学校づくり重点校研究発表会について
- ・ 各種団体新年会について
- ・ 2 / 6 中野区おもてなしコレクションについて
- ・ 2 / 8 平成19年度当初予算プレス発表について
- ・ 2 / 8 文教委員会について
- ・ 2 / 8 中野区立中学校PTA連合会対話集会について

## ○事務局報告事項

- 1 平成18年度インフルエンザ様疾患による臨時休業措置状況について（初発）

午前10時00分開会

飛鳥馬委員長

おはようございます。本日は定例会に先立ち協議会を開会したいと思いますので、教育委員会第5回協議会を開会いたします。

本日の出席状況は、全員出席です。

<委員長、委員報告事項>

飛鳥馬委員長

初めに委員長、委員報告ですが、私のほうから報告をいたします。

先週は、ここで会議がありませんでした。2週間ぶりになりますので、ちょっと多いと思いますが報告いたします。

最初は26日の金曜日ですが、定例の教育委員会が終わった後、ここで、幼稚園の園長先生方と意見交換会をしました。幼稚園の子ども達の生活の現状とか、あるいは幼稚園で園長先生方が抱えている課題とか、そういうお話を伺いまして、一番大きな議題になったのは、近年、障害をお持ちのお子様の入園が多いということで、なかなか大変なこともありますという、そういう話が結構多かったかなと思っております。

それからその後、私は、中野富士見中での研究発表会がありまして、そこに行っていました。中野富士見中は、各教科の指導法と教材の研究ということで研究して発表してもらったんですけども、中学校は教科担任制ですので、なかなか体育の先生と英語の先

生と一緒にという、そういう研究が持ちにくいのですが、そこを乗り越えて、お互いに指導法とか教材の研究を話し合おうということで発表してくれました。なかなか画期的な、意欲的な研究発表だったというように思います。

その後、今度は夜ですが、小学校のPTA連合会の方たちと、夜、懇親会といいますか、話し合いをしました。小学校のほうも、いろいろこういう時代ですのでPTAの方に、いろいろ地域パトロールとか、あるいは研究発表会とか、周年行事とか、たくさんお世話になっているわけですが、そういう報告もいただいて、また、今年度も引き続き学校と協力をしながら活動したいという話がありました。

それから、30日火曜日は、若宮小学校のやはり研究発表会がありまして、若宮小学校は子ども達の思考力を高める授業のあり方、工夫ということで、先生方がそれぞれ課題を持ってやっぱり研究していただいたわけですが、特に意識的というか計画的にということですかね、そういう理論に基づいた研究ということで、よく私たち、子ども達に授業をするときに、漠然とするのではなくて、きちっと計画を立ててしっかり実践をして、そしてそれをうまくいったかどうか評価して、その結果、さらにどう改めたらいいか改善をするという、PDCAという、そういう言葉があるんですが、そういう方法を使って先生方が研究されたという発表がありました。なかなか、やっぱり意欲的によくやってくださっておりました。

それから、2日、先週の金曜日は、武蔵台小学校で、我々教育委員と子ども達との対話集会というのがありまして、みんなで行ってきました。対話集会のテーマと言ったらおかしいんですが、子ども達と話し合ったのは、子ども達が楽しい学校というのはどういう学校を思っているのかなとか、自分たちで誇りに思うといいますか、よい学校というのはどういうことかなという話を大分して、子ども達の意見をじかに先生が引き出してきて、たくさん聞けました。私は、一言で言ってしまえば、やっぱり子ども達の楽しいとかよいとかというのは友達なんだなという実感を非常に強くしました。友達がいて楽しいということですね。ほとんどの子ども達が学校は楽しいと言っていましたので、安心させられました。たまたま、給食で、節分だったこともあり、豆が出たり、イワシが出たりして、担任の先生が、この魚は何ていうんだ、と。なかなか、イワシって出てきませんでしたね。シシャモとかワカサギとかというのは出てきたけれども。結構頭から食べていまして、家でもやりますかと聞いたところ、余り手は挙がりませんでしたけれども。多分、でもお母さん方、おやりになっているんだと思うんですけれども、子どもが意識していなかったのかもしれない。

それからあと、きのうは北中野中学校で、やはり研究発表会がございました。北中野中

学校は、ここ何年間か、中野区の特色ある学校づくりの重点校でもあるんですが、そのほかに科学技術振興機構、理数大好き地域事業推進校とあって、理科と数学を好きになろうということに非常に力を入れている学校なんですね。それで、もう、ここ何年もやっておりますので、東京都にも発表したり、子ども達の「北中ノーベル賞」とかというのがあって、その発表を都に持っていったら優秀賞をいただいたとかという歴史のある学校なんです。そういう学校が、きのうは「最先端おもしろ探求講座」という講座を開いて、16講座開きまして、子ども達は希望する講座を選んで自由にそこに参加して、1年生から3年生までも自由に参加して聞くという、そういうことだったんですが、来た先生方、授業をやってくれた人たちが非常に一流の学者でありまして、例えば理化学研究所の연구원であるとか、それから、国立天文台の연구원であるとか、民間の会社の人もいましたけれども、そういう方たちで、非常に最先端ということで、例えば理化学研究所の先生の一つの講座に行くと、抗がん剤とかアルツハイマーの治療になる薬をどうしたらできるかと研究をしているとかね。ケミカルバイオロジーなんて、私、よくわからないような、生物と化学との境界線の、何かあるらしいんですけれども、そういう話だったりですね。それから、さっきの天文台は、ハワイに日本でつくった「すばる」という大きいのがあるんですけれども、それと実際に映像が送られてきて教室で見れたり、時差のことがわかったり、そしてそういう天体の像を見ながら宇宙の構造を理解してもらおうとか、非常にたくさん。DNAの研究をされている人とか、素粒子とかアミラーゼとか、化石のレプリカをつくろうとか、非常にたくさんで16やっていましたけれども、こういうのを聞くと、子どもは興味、関心が高まるのかなと、非常にいい取り組みだったと思うんですけれども、こういうのがほかの学校でも広がればというふうに思いました。

非常にたくさんになりましたけど、以上です。

山田委員

私も、1月26日、協議会が終わった後でございますけれども、区立幼稚園の園長の先生方と話し合いをさせていただきました。委員長ご報告のとおり、やはり障害を持ったお子さんたちの教育について、現場ではいろいろなご苦労があるということ。それから、2園につきましては認定子ども園の移行ということをお願いしているわけでございますけれども、まだ具体的なことが余り都のほうからも示されておられませんので、そういった中で現場として少し戸惑いがあるというようなご発言がございました。

その夜は、小学校PTA連合会の新年会がございまして、それに出席をいたしました。

27日は、なかのZEROで小朝さんの落語の会がありまして、出かけていきました。やはり落語の会、超満員ですね、あの会場は。比較的、観客の方は、私より少し上の年代が

多かったようですけれども、ちょうど1月は中野区の保健福祉部が健康月間と称しておりまして、そのアンケートでも、1月は健康月間であります。たまには笑いを、皆さん家庭で笑いをいうようなことで、そんなアンケートも出ておりまして、非常に楽しい時間を過ごしてまいりました。

2日の日は、教育委員会として武蔵台小学校の学校訪問をいたしました。武蔵台小学校、近くに北中野中学校それから都立武蔵丘高校があるということで、この小学校と中学校、高校との連携について、これからいろいろ研究していきたいという、前向きなことでございました。それから、武蔵台小学校は吹奏楽が非常に有名で盛んなのですけれども、現場の声としては、楽器を使っていない中学校から借りている事情があったり、楽器のメンテナンスにお金がかかるので、何とか、その辺の資金的なことが非常に学校としては困っている、何とかしていただけないかというようなお話もありました。授業を拝見させていただきましたが、3年生のクラスですかね、少し、いわゆる特別支援が必要であろうというお子さんがあるクラスに何人かいらっしゃった関係で、担任の先生が非常に苦労されながら授業を何とかまとめているという姿を目の当たりにしまして、やはりこれからの軽度発達障害のお子さんたちを抱えた学級運営というのは非常に難しいものがあるんだなと思ったのでした。

その午後は、子ども達との対話集会には私は出れませんが、実は中野区の向台小学校で研究発表会がございました。向台小学校は、平成15年から18年まで、国際理解教育の推進校ということで、その研究を進めていったわけでありまして。その発表でございました。主に国際理解教育ということでもありますけれども、外国語としては英語活動ということで取り組まれております。英語教育でなくて、英語活動ということが、やっぱり小学校でできる一つの話なのかなということで、子ども達は、英語を通じていろいろなゲームをしたりなんかして、先生方と一緒に英語というものに親しんでおります。その中で、コミュニケーションの能力の育成ということに力を入れた研究ではなかったかなと思います。向台プランという、子ども達の現状を把握してのプランニングをされておりまして、担任の先生が英語活動に力を入れるということで、担任の先生も非常にご苦労があったのではないかなと思いますけれども、子ども達とともに、いろいろ勉強をされた結果の成果を発表されておられました。

2月3日ですが、男女共同参画センターで朗読劇「静かな慟哭」というのが上映されていまして、見てまいりました。これは、児童虐待やドメスティック・バイオレンスの悲劇を朗読劇という形で4人の女性の方が、その場で披露されておりまして。やはり、児童虐待を受けた子ども達の生の声を朗読という形でされておりまして、一方では、また

ドメスティックを受けた女性の立場からの、いろいろな朗読をされておりまして、会場は30人ぐらいでしたけれども、非常に、こういったことで児童虐待、ドメスティックの生の姿を劇という形でされているという活動は、一つは、啓発という意味では大切ではないかなと思っております。朗読劇をされた女性のグループが非常に熱心に取り組まれていることに感心をいたしました。

同じく2月3日の夜なんですけど、私たちが組織しております東京思春期保健研究会というのがありまして、そちらの講演会といいますか協議会がありまして、今年、このときのテーマは「高校生の心の相談現場から」ということで、都立高校のスクールカウンセラーの臨床心理の方の発表と、都立高校の学校保健活動支援事業というのがあるんですけども、精神科の先生として実際に学校のメンタルヘルスに関わった方、この2人から講演をいただきました。スクールカウンセラーでございますけれども、中学校は、皆さんご承知のとおり、平成18年ですかね、全校に配置されていると思いますけれども、都立高校では、都立高校205校のうち、配置されているのは60校ということでありました。現場では、やはり子ども達からのメンタルヘルス的な相談も多いということでありまして、一方では教職員のストレスマネジメントによる相談も多いということ、非常に先生方の心の病、ふえているということ、非常に心配をされておられます。あと、高校になりますと、中学校の義務教育と違いまして単位取得ということがありますので、こういったスクールカウンセラーのカウンセリングをしているときに、授業が欠席扱いになってしまうこともあるので、この辺については、これから教育上の問題の配慮からも、特別な相談業務ということで、その点を考慮していただきたいというような発言がございました。また、やはり、今の子ども達、一つの問題は携帯依存症というのですけれども、携帯でなければ話ができない。実際には、すぐ後ろに座っている同級生に対して携帯でやりとりをすると。返事が返ってこなかったら、これは無視されたんだということ、非常に悩むというような現場の声があります。どうしてそういうようになってしまったのかなということは、やはり大人たちの社会の映しではないかということで、非常に心配をされておられました。

最後になりますが、昨日でございますが、中野区の第2回中野区要保護児童対策地域協議会代表者会議が開催をされまして、出席をいたしました。主に子どもの虐待などについて話し合いをする会でございますけれども、中野区の子ども家庭支援センターの相談実績の中では、昨年度の児童虐待の通告状況は81件ということで、区民からの通告が36件、それから関係機関からの通告45件、関係機関の中では、保育園、小学校、中学校といった教育施設からの通告もあったということでありまして、子ども家庭部のほうでは、最近児童虐待を未然に防止しようということの試みの一つとして、要支援家庭訪問と言いまして、

例えば幼児健診、区でやっておりますと1歳6カ月健診とか3歳児健診になりますけれども、そのとき未受診だった方、ご家庭を訪ねて子どもの状況を把握しようということで、虐待などが起きていないか、ネグレクトなどがないかどうかということ調べていこうかということ、保健士さんと一緒に要保護訪問するという事業をされておまして、67件の件数が上がっております。ただ、多くは届け出をされている住所に訪問しても、なかなかお目にかかれなかったというケースが多い。それから、外国人の家庭が比較的多いということですが、まだ数は少ないんですけれども、1件については訪問をしたことで子どもの養育状態だとかそういうのが把握できて、現状がよくわかって、どうもお母さんは子どもの養育に対して非常に心配をされていたということで支援をして、未然に防止できたのではないかという話がありました。

会議の中で警視庁の新宿少年センターのほうから要望がありまして、昨年度の非行の件数ですとか不良行為の件数は、全体として前年から比べれば非行そのものは10%ぐらい減っているということです。中野区の現状においても、非行が215件、不良行為が758件で、非行の件数は14件ほどふえているけれども、不良行為は258件ぐらい減っているということで、中野区は東京都の全体の中では比較的落ち着いている地域ではないかということでありました。ただ、ここでも問題になりましたのは、やはり携帯を使った事故や事件に子ども達が巻き込まれているということです。私もほかのことで聞いてきたんですけれども、諸外国は、携帯は携帯電話なんですね。要は、アメリカでもヨーロッパでも普及はしていますけれども、携帯電話として普及しているんですね。だから、大人は子どもに対して何か緊急があったらこれで電話しなさいということで携帯電話を持たしているという事実なんです。一方で、日本はどうでしょうか。携帯電話ではなくて、携帯として普及してしまっていますね。子ども用のGPSのついた子どもの携帯電話を与えても、使い方が悪いと、いわゆる不良サイトの方につながってしまうということが明らかなんだそうです。ですから、ぜひ携帯を買ってお子さんに与える場合には、そういうのをブロックできる、フィルタリングというのですか、そういったことをぜひ必要だからやっていただきたいというようなことが、お話がありました。

長くなりましたが、私からは以上であります。

高木委員

私も、26日の教育委員会が終わった後に、区立幼稚園の園長先生4人とのお話し合いに出席いたしました。やはり現場の園長先生のいろいろなご苦勞をお聞きして、健全な——健全と言ったら今は言うてはいけない言葉ですが、子ども達の発達にきちっと対応した区立の幼稚園教育というのを充実していく必要があるなと感じました。

その後、富士見中学校の研究発表会に私も出席いたしました。特色ある学校づくり重点校のテーマが小規模校の特色を生かした教育活動のあり方ということで、特に私は講演で、東京女子体育大学の田中先生のご講演で、OECDの生徒の学習到達度調査、いわゆるPISA調査というので、日本の子ども達の読解力が落ちているというのが大分新聞で話題になりましたが、あれは読解力ではないんだと。日本語で無理やり訳すと読解力ですが、言語はリーディングリテラシーですかね、むしろ問題を解き明かす能力なので、国語教育をどうにかしてということではないんじゃないかということで、かなり目からうろこが落ちるようなお話でございました。

夜は、小学校PTA連合会の懇談会に出席しました。

翌1月30日は、若宮小学校研究発表会に私も出席いたしました。こちらのテーマが、「確かな学力を培う学習指導」ということで、熱心な教育を見させていただきました。特に、区内で先行して芝生を校庭に整備した学校で、なかなか先生方あるいは子ども達もメンテナンスが初年度ということでご苦労されているんですが、やはり冬でも青い芝生があるというのは非常に子ども達にいい影響を、運動だけではなくて精神的にもいい影響を与えるというお話が非常に興味を引きました。

続きまして、2月2日、先週の金曜日、私も児童と教育委員との対話集会、武蔵台小学校のほうに出席いたしました。3時間目、4時間目の授業を見させていただいた後、4年生の教室に行って給食を子ども達と一緒に食べました。武蔵台小学校は、児童数が471人、区内で一番大きい規模ですね。一たん減ったところの教室を、例えばパソコン教室とか、あるいは食堂というところに転化しているので、今後、まだ、武蔵台小学校の周辺は宅地化がこれからというところがあって、そういった形で、もともとの昔に近い人数に戻ったら教室が足りなくなっちゃうんじゃないかなんてというのが、大分、校長先生も心配をされていたので、先読みでそういうことを検討していく必要があるなど。特に、お隣の練馬区では、もともとの農地にぼんぼんと大きなマンションが建って、急に子どもがふえて、大分小学校が満杯になっているというのもありますので、中野区は比較的人口が密集していますので、なかなかそうではないのかなと思っておったんですが、そういう地区もあるなということでございます。あと、肝心の児童との対話集会では、子ども達が、テーマが「よい学校、楽しい学校」ということなんですが、授業が楽しいという子どもが結構多くいたんですよ。これはちょっとびっくりしたとともに、非常にうれしかったですね。そういった授業をやってくださる先生方に、非常に感謝しております。

以上でございます。

大塚委員

皆さんと重なるんですが、1月26日に幼稚園園長との意見交換会に出席いたしました。特別支援教育の関係もあったり、通常の幼稚園の教育の関係でも、先生方のスタッフの充実をもう少し図ってほしいというお話が印象的でした。

それから、夕方、小P連の新年会に出席いたしました。

それから2月2日、武蔵台小学校に伺いまして、3・4時間目の授業と、それから給食と一緒に食べさせていただきまして、午後からの児童の対話集会に出席いたしました。最初に、事前に作文を書いてもらっていたということもあって、それから、司会をしていた先生の非常に手際よい進行もあって、内容の濃い意見交換会ができたなというふうに思いました。

私のほうは、以上です。

<教育長報告事項>

飛鳥馬委員長

では教育長報告、お願いします。

教育長

学校訪問を大分やっております、2週間では14校、今まで、幼稚園も入れますと26校回っております。全部で47なので、半分以上、もう少しで全学校をで回れると思います。

それから、研究発表につきましては、各委員がおっしゃっていたような学校につきまして行っております。

それから、各団体の新年会がございまして、そちらにも、この2週間に7件ばかり伺っています。

それから、区のほうのいろいろ行事があります。その中で、一つは6日の日に「おもてなしコレクション」という事業がありました。これはどういうものかということ、中野区で進めています「おもてなし運動」というのがあるんですけども、顧客満足を上げるようなということで、各分野が取り組む運動ですけども、これの発表会です。これにつきましては、ほかの自治体から、例えば所沢市とか横浜市なども大分来ておりまして、そういう中で、八つの分野が1年間取り組んだ成果を発表したと、そんなようなことで、教育委員会も、経営分野が発表いたしました。

それから、順不同になりますが、昨日、予算のプレス発表が行われました。中野区の19年度予算の内容について、新聞記者等を集めて発表したわけですけども、大体、研究開発機構というのを今度新しくつくるということで、その質問が多かったですね。

それから、同じく昨日ですが、区議会の文教委員会がございまして、これは主に、いろ

いろ報告もあったんですが、施設の視察というのをやりまして、江原町一丁目にあります東京子ども図書館を見学しました。あそこは大変おもしろくて、全く民間の図書館なんです。それで、責任者の方が言っていましたけれども、公共の、国とか都とか区から補助金を一切受けなくて運営しているということで、非常に立派な図書館で、子ども専門なんですけれども、いっぱい子どもが来ていました。読み聞かせとか、そんなことをやっていました。

あと、中P連、中学校PTA連合会と対話集会と言うのですかね、私と次長だけなんですけれども、経営担当課長も、3人で出まして、いろいろ、あり方と言うのですかね、要望等をお聞きして意見交換をするというようなこともございました。

以上でございます。

山田委員

すみません、たくさんあったので一つ忘れてしまいました。

1月31日の水曜日に、区の特別支援教育の研究発表がありまして、今年度モデル校として、小学校では桃園小学校、桃園小学校は障害児の学級があるわけですけれども、その小学校と、それから区立第三中学校の2校から、今年1年の成果についての発表がございました。どちらも発表いただいたのは、いわゆる特別支援コーディネーターという方で、お二人とも非常にマネジメントの能力が高くて、校内研究をしっかりとされておりました。私たちがお聞きしたのは5時からでございますけど、その前には区立の小中学校の先生方のために同じようなプレゼンテーションをしたということで、やはり先駆的に取り組まれたモデル校として、その研究成果を区内の先生方にも十分に周知をさせていただいたということでありまして、非常に意義が深いですし、この4月から始まります特別支援教育に向けての準備として、中野区としてはきちんと取り組みができているのかなということで感心をした次第であります。

すみません、追加をさせていただきます。

飛鳥馬委員長

私も一つ追加がありますが。忘れていまして。

2日の金曜日に、なかのZEROで中学校の連合作品展というのがありまして、ちょっと覗いてきました。中学生の彫刻、絵画、陶芸等、たくさん。通常学級は代表生徒の作品だと思うんですが、障害児学級の子のものもたくさんありましたので、障害児学級はほとんど全員出品しているのかと思いましたけども、非常に力作ぞろいで、目を楽しませていただきました。

それでは、事務局報告に移ります。

<事務局報告事項>

飛鳥馬委員長

最初に、平成 18 年度インフルエンザ様疾患による臨時休業措置について報告をお願いします。学校教育担当参事、お願いします。

学校教育担当参事

それでは、平成 18 年度インフルエンザ様疾患による臨時休業措置状況についてご報告いたします。

これについては、東京都では 19 年 1 月 19 日に西東京で学級閉鎖がありました。そういった情報を受けまして、私のほうでは、私名で各小中学校にインフルエンザ様疾患による学級閉鎖があったと。したがって、うがいとか手洗いの励行と予防対策に十分注意してほしいと。それと、学級閉鎖の際には速やかに報告するようという文書を出したところです。それを受けまして、1 月 29 日に西中野小学校 1 学年 2 組が在籍数 22 名のところ 14 名欠席したということで、学級を閉鎖したところです。期間は 1 月 30 日から 2 月 1 日の期間であります。この学級閉鎖につきましては、学校保健法 13 条により、学校の設置者、いわゆる教育委員会が行うこととされていますが、中野区においては同法第 21 条に基づき学校の一部の休業、学級閉鎖については校長に委任して決定いただいているところです。学校閉鎖については、教育委員会が決定するという事になってございます。そんなところで、今現在、西中野小学校で学級閉鎖があったという状況であります。その後、うがい励行を行いまして、できるだけこういった措置にならないよう指導しているところであります。

以上です。

飛鳥馬委員長

何か質問、ご意見ありましたらお願いします。

山田委員

今年は非常にインフルエンザが少ないですね。暖冬と、それからこの二、三年ですけれども、やはり高齢者インフルエンザ予防接種事業というのが始まって、もう 3 年ぐらい経過しているんですけども、やはり家族の中で 65 歳以上の方達がワクチンを打つという機会が設けられたことが、ご家族の中でも、やっぱり予防接種を打とうということが広まっておりまして、昨年度の予防接種の打った本数も非常に多かったと思いますので、全体で予防ができているということと、この暖冬ということで、うれしいことに非常にインフルエンザが少ないということでもありますけれども、今がピークだと思いますので、ぜひうがい、手洗いの件をよろしく願いいたします。

飛鳥馬委員長

ほかはよろしいでしょうか。

それでは、そのほかに報告事項はございますか。

それでは、以上で本日予定しました議事は終了しました。これもちまして、委員会第5回協議会を閉じます。

午前10時35分閉会